

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900012		
法人名	株式会社 西日本介護サービス		
事業所名	グループホーム ウィズライフ奈良屋		
所在地	福岡県福岡市博多区奈良屋町8-19		
自己評価作成日	平成22年9月15日	評価結果確定日	平成22年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・地域の一人としての意識を常に持ち、ご入居者の生活がホームの中だけで完結しないように、積極的に地域に溶け込めるよう活動している。</p> <p>・2ユニット合同で勤務を組むことで、緊急時や日常生活上での支援でも柔軟に協力体制が取れている。馴染みの関係が広がるよう取り組んでいる。</p>
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>福岡市圏内を中心に多くの介護事業所を展開する株式会社が母体であり、利用者、家族へのアンケートの実施や研修指導体制、帳票の統一等、サービスの質の向上に法人全体で取り組んでいる。事業所自体は開設から3年目を迎えるにあたり、調査当日は記念祭に向けて活気づいていた。「ウィズライフ奈良屋」の特徴としては地域や行政との密な連携が挙げられる。治安パトロールや自主防災活動等、生活全般において「山笠の町博多」の気質が息づく活動が見られた。また本年は行政と連携して、障がい者の就労支援、地域の独居高齢者支援を目指す「ぬくもり広場」を設立し、併設するデイサービスと共に地域との活動に取り組んでいる。今後も「博多っ子」の一員として地域全体での発展が益々期待できる事業所である。</p>

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己評価および外部評価票

ユニット名: 2階 水芭蕉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>・最後まで自分らしく暮らしていけるようにとの想いを理念に掲げている。また、管理者は職員の入社日研修時に理念の説明を行い、会議やミーティング前にも全員で唱和している。</p> <p>・ホーム内に掲示することで出勤時や当直時に確認している。</p>	<p>開設にあたり、職員全員で話し合い、ホーム独自の理念を作り上げている。「最後まで自分らしく暮らして行けるように」を理念とし、唱和や確認をしながら、日々の支援の中で実践に努めている。看取り支援の事例も含めて、理念の実践が見られた。</p>	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>・地域の祭りや山笠等の地域行事に積極的に参加させていただいている。また、地域の自主防災委員に参加し、定期的に防災や介護技術についての合同勉強会を開催するなど、地域交流を深めている。</p>	<p>開設当時から山笠を中心とした、自治会活動やイベントに「住民」として参加し、防犯や非常災害に取り組んでいる。本年度は自主防災委員会を組織し併設事業所で隔月ごとに会議を開催している。また地域住民向けに、ホーム食事の試食会等を計画している。</p>	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>・ホーム独自の通信【奈良屋かわら版】を月1回発行し、ご入居者と一緒に配布すると共に、2ヶ月に1回開催している運営推進会議でも、ご家族や地域の方の理解を深めていただけるよう話をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームの状況報告や評価への取組み、防災に関する勉強会等を行っている。 ・いただいたアドバイスは、全職員で改善に向けて取り組んでいる。	民生委員やいきいきセンター、家族代表らの参加のもと2ヵ月毎に開催している。会議ではホームの状況や行事の説明、改善案の提示、災害時の協力体制、地域活動や身体拘束や成年後見制度等について質疑応答や協議がなされている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・公民館行事への参加や、民生委員さんとの関わりを深めている。 ・併設事業所と連携して、多世代地域支援事業「ぬくもり広場」に取り組んでいる。	運営推進会議にも適宜いきいきセンター職員の参加があり、献立について保健師から助言を受ける等、連携の機会を確保している。また、昨年度より併設事業所共々、行政と連携して「多世代地域支援事業ぬくもり広場」に取り組む等の成果もみられた。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・毎月のミーティング時に抑制廃止委員会を行い、確認していくことで、拘束ゼロの継続に努めている。 ・玄関はオートロックになっているが、ご入居者が外出を希望される際は付添い、外出できる体制を作っている。	施錠やベッド柵に限らず、スピーチロック、行動制限や拘束、抑制について意識し毎月の委員会会議で協議する等、啓発に努めている。ケア全般において、安易に判断する事なくプロセスを重視し、環境整備等も含めて、利用者の自由と安全を守る為の支援に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・外部研修には随時参加し、また内部研修のカリキュラムにも含まれており、学ぶ機会を設けている。 ・リスクマネジメント委員会を設けており、毎月のミーティング時に確認し、話し合うことで防止に努めている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・外部研修や会社主催の研修・勉強会等実施している。 ・入居契約時には必ず成年後見制度の説明を行い、参考資料等もお渡ししている。	外部研修への参加や法人全体研修の年間計画に位置付け、学習する機会を確保し制度の周知や活用の機会に向けて取り組んでいる。契約時に利用者及び家族に資料を配布し概要等について説明しており、この過程を経ての支援事例も見られた。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約前に見学と相談時間を設け、説明を行い、体験入居をしていただいた上で、契約書に順じた説明を再度させていただき、理解と納得を図るようにしている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時やサービス担当者会議、運営推進会議にてご意見をいただき、職員間で改善策を検討し、結果を記録・報告している。また、ケア担当者の評価アンケートも実施している。 ・苦情相談窓口として、施設の窓口、公的窓口を重要事項説明書の中に明記、説明している。	日常的な会話や家族会、運営推進会議時、アンケート等を実施し意見や思いの表出に努めている。意見や苦情、アンケートでの要望等は、内容に応じてその場での回答や、法人会議や職員会議での検討後の回答等を行い改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月のミーティングや毎日の申し送りで意見や提案を聞く機会を設けており、全体会議で管理者から運営者へ報告しアドバイスもらっている。 ・定期的に職員面談を実施しており、管理者が個別に話を聞く機会を設けている。また、業務ノートにて全職員が意見を提案できるようにしている。	事業所ミーティングや、管理者や法人内の他事業所管理者との個別面談を行い、職員が意見を述べやすいように取り組んでいる。出された意見や要望等に対しては、協議を行った上で検討し、日常の支援や運営において反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・キャリアラダー、自己評定を元に作成した目標に対し、必要に応じて支援、育成を行っている。 ・全職員を対象に、処遇制度について説明会を実施。各自が向上心を持って働けるように努めている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	・採用に関して、性別や年齢等の条件はなく、採用時は1日職場体験をしてもらい、ホームの様子を把握できるようにしている。 ・職員の特技や趣味を業務や行事で活かしている。また、休日の希望をとり、働きやすい環境を作っている。	採用に関しては、年齢や性別、資格や経験の有無等の制限は設けず、理念への共感や適性を考慮し、法人が各事業所へ配置している。現場では「1日体験」後に入職の意思等を確認している。入職後は新人導入研修や資格取得支援、勤務調整等を行い、働きやすい環境づくりに努めている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	・法人全体で研修や外部研修に参加し、入居者の尊厳について確認している。ホームでもマナーチェックの実施や言葉遣い、対応等で気付いた事は個別に指導している。	法人全体や事業所内の研修に位置付け、高齢者虐待防止や人権擁護について勉強する機会を確保している。また、地域の人権学習会へ管理者、職員が参加する等、幅広いテーマにおいての人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・人事考課にて、職員一人一人のケアの実際と力量を把握し、法人全体での研修等定期的開催している。また、全社で委員会を設置し、それぞれで勉強会を開催している。ホーム内でも月に1回研修・勉強会を実施している。 ・外部研修の希望をとり、積極的に学ぶ機会を作っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・外部研修で他の事業所との交流の機会をもち、ネットワーク作りに努めているが、研修会・勉強会等は実施していない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居相談時にご本人と面会を行ったり、体験入居を利用していただく中で、ご本人の話を聞く機会を設けており、本契約までに信頼関係が少しでも多く構築できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・話を聞く機会を設け、ホームの理念・指針等きちんとお伝えする事で、信頼をいただけるよう努めている。 ・入居待機等ですぐにご利用できない場合は、定期的に手紙や電話連絡等を行い、不安の把握、解消に努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居相談時に必要な支援を見極め、様々なサービスの情報提供に努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご本人の生活暦を把握し、生活リズムを大切にしながら、理念に掲げている、喜怒哀楽を共有し、助け合いながら生活を共にする関係作りに努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会やサービス担当者会議にて近況報告を行い、ご家族からも意見をいただくなど情報交換を行うようにしており、共にご本人を支えていく支援者としての関係作りに努めている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご本人の馴染みの場所等、情報を基に出かける外出レクや、ご友人に気軽にホームへ来ていただけるような環境づくりに努めている。	利用者の趣味や習慣、知人、友人との交流等が継続できる様に、家族と連携しながら支援している。行きつけの美容室の利用や自宅までの散歩等の支援事例がみられた。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・日々の関わりの中で、相性の関係をしっかりと把握し、食事の席や外出時の人選等考慮している。 ・ホーム内外でのイベントを通してご入居者同士が交流を図れるよう支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・行事の際には案内をし、参加していただけるようにしている。また、面会や電話、手紙等にて必要に応じてご本人・ご家族の経過をフォローできるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりからアセスメントをとり、ケアカンファレンス時にご本人の立場に立って想いを話し合い、ケアの方向性が統一できるよう努めている。	利用前の面談、ホームでの様子や日々の会話を通じて、本人の思いや意向を把握し、カンファレンス記録や支援経過に記録し共有している。思いや意向の表出が希薄な利用者に対しても、日常の会話やしぐさ等から本人の意向を汲み取り、介護計画へ反映させ支援している。	寡黙な利用者の思いや希望について、真摯に向き合う職員の姿勢や熱意がうかがえました。今年度から取り組んでおられる「ケアの標準化」と同時に、利用者一人ひとりの個別支援への充実を大いに期待します。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時にご家族より生活暦やこれまでの経緯等の情報をいただき、入居後は直接ご本人・ご家族より伺った情報を記録に残す事で、全職員が周知できるようにしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の状況を介護記録に残し、また、申し送り時に情報交換を行うことで総合的に把握するよう努めている。 ・アセスメントや個人別の申し送りノートにて、現状だけでなくケアのポイント等も職員間で共有できるようにしている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・アセスメントやご本人との関わりの中でニーズの把握に努め、ケアカンファレンスやサービス担当者会議を通して介護計画を作成している。	毎月のカンファレンスを実施し、利用者についての情報交換や確認を行い記録している。モニタリング、評価、介護計画の見直しは、3ヶ月毎に行い、心身状況に変化が生じた際もその都度対応し、関係者で話し合いながら、現状に即した新たな計画を作成している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の状況を記録に残し、気づきやケアのポイントを個人申し送りノートに記入する事で職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・併設事業所のレクリエーション参加や、浴室の利用等、ご要望に応じて柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。 ・状況に応じて、食事、入浴時間等臨機応変に対応している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・民生委員さんのご協力のもと、地域行事等への積極的な参加や、自主防災組織との協力体制にて、地域資源と共生した支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご本人やご家族の希望にて、かかりつけ医は其々である。協力医の往診は月に2回あり、ご入居者の体調の変化に対応している。 ・歯科に関しては訪問歯科にて対応、他科受診の付き添いを行い家族に報告している。	主治医は利用者・家族が選択している。協力医療機関及び歯科からは定期往診があり、皮膚科や耳鼻科等については、家族と連携しながら受診している。また、訪問看護や併設事業所の看護師とも連携しながら対応している。	認知症専門医による受診の必要性は益々高くなるものと思われます。他の診療科目も含めて適切かつ包括的な医療受診の支援にむけて、協力医療機関、家族、行政、地域事業者と連動して取り組まれて行くことを期待します。
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・協力医療機関の看護師による訪問の際、日頃の状況等を報告、助言をいただいている。緊急性がなく、職員の疑問解決については、併設事業所の看護師にも相談している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時は職員間で協力しながら面会に行き、安心できるよう支援している。また、病院関係者との連携を図り、早期退院できるよう支援している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化についての指針に基づき家族へ説明し、家族の確認と同意書を交わしている。	契約時及びケアプランの更新時には、重度化や終末期についての意向を確認する機会を設けており、段階的に関係者で方針や情報を共有し、支援している。昨年同様、本年も本人の意向にそった看取り支援事例が見られた。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・随時救命講習会に参加しているが、全ての職員が実践力を身に付けてるとはいいがたい。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に2回の火災時の避難訓練のほか、地震時や水害時の避難訓練等実施している。地域の自主防災組織と連携が図れており、地域からの協力体制はとれている。	同敷地内の併設事業所と合同で年2回の避難訓練を実施している。また、本年度は地域の自主防災組織に参加し、隔月ごとに会合や勉強会を開催する等、自治会と連携した災害対策への取り組みがみられた。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ご入居者との会話や対応には個人の尊厳を守り、配慮している。個人記録は事務所の棚に保管しており、個人名が分からないよう目隠しをしている。	個人情報保護についての研修や個人記録等も事務所での一括管理や漏洩の防止に努める等、法人全体での取り組みがある。利用者への尊厳やプライバシーについても、職員全員で考える機会を確保し、意識向上や啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常生活の中で、ご本人の希望・要望を聞きとり、表現できる場面を作れるよう支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・1日の過ごし方をご入居者と話し、確認し、希望に沿い、ご入居者毎に生活できるよう支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・馴染みや近所の美容室にでかけられ、散髪、シャンプー、ブローなどを定期的に利用されている。また、自らおしゃれをされないご入居者へは、お化粧品やマニキュアを行うことで関心を持てるような支援をしている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ご入居者と共にコミュニケーションをとりながら料理を作っている。 ・食事中は職員も同じ席につき、会話や音楽など、楽しく食事ができる雰囲気作りを行っている。	栄養バランスや利用者の好み等を取り入れ、買物準備、調理、配膳等を職員と利用者が協力して行っている。また、職員の食事代を助成し、利用者と職員が同じ食事をとれるように配慮しており、調査当日も利用者と同じ昼食を楽しむ様子が伺えた。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・職員が献立を立て、カロリー計算は特に行っていないが、食事係がホームに1名おり、献立や食材のチェック等実施している。 ・全ご入居者の食事の記録と必要に応じて水分チェックを行っている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケアを実施。声かけも行っており、義歯の方は食後外し、口腔内の清潔も保っている。 ・定期的に義歯洗浄剤を使用し、義歯の清潔保持に努めている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・なるべくトイレでの排泄ができるよう、時間やご入居者の表情や言動を見ながら定期的に誘導を行うことで、排泄の失敗は減ってきている。	利用者毎の排泄パターンを把握し、介護計画書に位置付け個別に支援している。この過程を経て、オムツからトイレ介助等への成功事例も見受けられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・個々の介護記録、排泄表にて排便の状況を把握している。乳製品やバナナ等の提供や体操の実施により蠕動運動を促すよう努めている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	・ご入居者の希望にあわせて入浴の支援を行っている。体調等考慮して職員が判断する事もある。 ・夕食後も入浴できるなど、遠慮せずゆっくり入浴を楽しめるよう努めている。	入浴日は特に設けていない。毎日の入浴も可能であるが、実際は週2～3回の利用が多い。あまり入浴を好まれない方にはタイミングを見計らった声かけやシャワー浴、足浴、清拭等を行い、定期的に清潔保持の機会を確保している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・ご入居者の状況に応じて休息を促す等の支援を行っている。 ・日中の活動を充実させることで夜間良眠を促し、昼夜逆転を防いでいる。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人ファイルに薬の詳細を綴り、全職員が確認できるようにしている。 ・与薬時は必ず複数の職員で名前、日付、時間の確認を行い、服薬まで見届け、服薬後の袋にて再確認している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・食事準備や片付け、洗濯たみ等ご入居者にあつた役割がある。また、趣味や特技を活かしていただけるよう、週に1回「クラブ活動」を実施している。行事への参加やレクリエーション等も多くあり、季節感を感じていただきながら楽しみの支援を行っている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・日常の散歩やスーパーへの買物の他、地域の行事や誕生日等、普段行けないような場所へもご家族や地域の人々の協力を得ながら外出を楽しんでいただけるよう支援している。	定期的な花見や行楽に加えて、散歩や買物等、屋外に出かけるような取組みがある。また、美容室や自宅までの散歩等、利用者個々の希望や状況に合わせて、家族と協力しながら支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・財布を持っている方には、所持金を職員が把握し、ご本人が購入したいものを購入していただいている。その他の方は、買物の際に財布の中身を職員と見て協力して支払いをする事で、支払いの実感を感じていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙や贈り物が届いた際は、お返事を書いていただいたり、お礼の電話をかけていただくなどの支援をしている。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節の花を玄関やリビングに飾っている。 ・テーブルやソファの位置など、ご入居者の要望に合わせて移動し、気持ちよくくつろいでいただける環境を作っている。	ビル仕様の外観とは対照的に、落ち着いた色調のインテリアや、タイルカーペットのリビングは優しく、和やかな雰囲気の間となつている。また、各ユニットの玄関には訪問者を迎える様な形で、山笠の飾り人形が飾られており、地域性を象徴するオブジェとなっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビング内に数箇所ソファを配置しており、仲の良いご入居者同士で集まったり、ゆっくりくつろいでいただいたりと、居場所の工夫をしている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室には使い慣れた家具やご家族の写真を用意していただき、居心地良く過ごしていただけるようにしている。 ・趣味の道具等も持ち込んでいただく事で、これまでと変わらない暮らしができるよう努めている。	殆どの利用者が、体験利用後に家族と相談し、衣類や仏壇、寝具、調度品等を持参している。部屋は70-リングで、布団やベッド、家具の配置等も利用者の心身状況や生活習慣を考慮しながら、安全かつ快適に過ごせるように配置されていた。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室前には表札等使用する事でご自分の部屋だと分かるようにしている。また、トイレの場所を探される方もいらっしゃる為入り口に分かりやすく貼り紙をしている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			